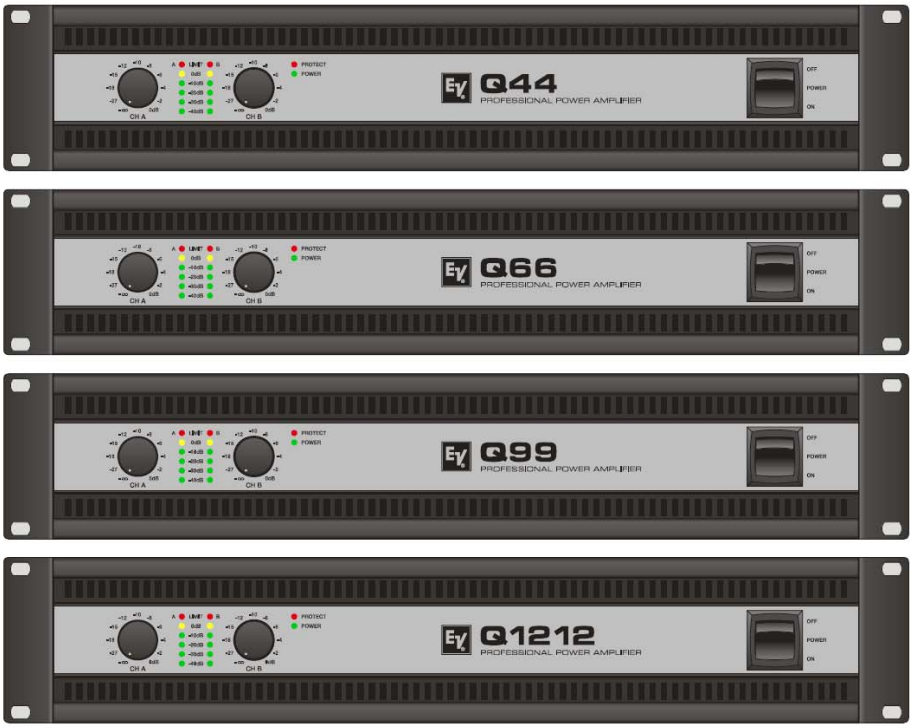
Electro-Voice®

OWNER'S MANUAL
取扱説明書



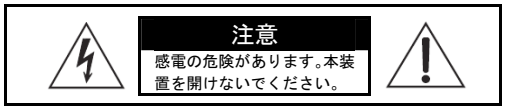
Q44
Q66
Q99
Q1212

PROFESSIONAL POWER AMPLIFIER

目次

1. はじめに 4
1.1 製品の紹介 4
1.2 開梱と点検 4
1.3 内容物と保証 4
1.4 機能と説明 4
1.5 ユーザの責任 4
2. 設置 6
2.1 コントロール、インジケータおよび接続口 6
2.2 使用電圧 7
2.3 電源スイッチ 7
2.4 取り付け 7
2.5 通気 7
2.6 グラウンドリフト 8
2.7 LPN フィルタ 8
2.8 動作モードの選択とオーディオ出力のケーブル配線 8
2.9 オーディオ入力ケーブルの配線 10
3. 操作 11
3.1 ボリューム・コントロール 11
3.2 表示 11
3.3 ファン冷却 11
仕様 12

重要な安全上の注意



警告：火事や感電事故の防止のため、本装置を雨などがかかる場所に置かないでください。

警告：必ず保護アース接続付き電源ソケットに接続してください。

正三角形に電光と矢印がある記号は、製品のケース内に絶縁されていない「高圧電流」が流れ、感電の危険があることを警告するものです。

正三角形に感嘆符のある記号は、本装置の取扱説明書に記載されている操作と保守（整備）の重要な指示への注意を喚起するものです。

1. 安全に正しくお使いいただくために、取扱説明書をお読みください。
2. 取扱説明書はいつでも見られる所に保管してください。
3. 警告の内容すべてに注意してください。
4. 取扱説明書に従って操作してください。
5. 本装置を水の近くで使用しないでください。
6. 汚れた場合は、乾いた布で拭いてください。
7. 通風孔をふさがないでください。取扱説明書に従って設置してください。
8. ラジエーター、電熱装置、ストーブ、またはその他の熱発生源（アンプを含む）の近くに本装置を設置しないでください。
9. 有極プラグやアース・プラグの安全目的を無効にしないでください。有極プラグには幅の異なる 2 枚のブレードがあります。アース・プラグには 2 枚のブレードと、もう 1 つアース・プロングがあります。広いブレードまたは 3 本目のプロングは安全のためのものです。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事店に依頼し古いコンセントを新しいものと交換してください。
10. 電源コードを踏んだり、プラグや室内コンセント、装置から出た部分がはさまれたりしないように保護してください。
11. メーカー指定の取り付け具/付属品以外は使用しないでください。
12. カート、スタンド、三脚、ブラケットまたはテーブルは必ずメーカー指定のものまたは別売のものを使用してください。カートを使用する場合は、移動中にカート/装置が転倒して怪我をしないように注意してください。

13. 雷が鳴り出したり、長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
14. 修理は弊社サービス担当者にご依頼ください。電源コードやプラグが損傷した、液体や異物が入った、装置に雨水がかかった、正常に動作しないまたは落とした場合には、修理を依頼してください。
15. 本装置を水滴が落ちたり飛び散ったりする場所に設置しないでください。また、花瓶など液体が入ったものを上に置かないでください。
16. 本装置を AC 電力から完全に切断するには、AC コンセントから電源コードのプラグを抜いてください。
17. 電源コードのプラグは直ちに動作可能であるとします。

重要な修理上の注意

注意：**以下の修理上の注意は、資格のある担当者向けのものです。感電防止のため、資格がない場合は、「操作説明」に記載されている以外の修理を行わないでください。修理は弊社サービス担当者にご依頼ください。**

1. 本装置の修理の際は、EN 60065（VDE 0860 / I EC 65）および CSA E65 -94 に記載された安全規定を順守してください。
2. 保守中に装置を開けたまま、電源に接続して動作させる場合は、必ず電源セパレータ・トランスを使用してください。
3. 拡張部の取り付け、主電圧または出力電圧を変更する場合は、その前に電源スイッチをオフにしてください。
4. 主電極の間にある主電圧を通す部品と手の届く金属部品（金属エンクロージャ）とは、最低 3 mm の間隔をあける必要があり、常にこれを守ってください。主電圧を通す部品と主電源に接続されないスイッチやブレーカー（二次部品）とは最低 6 mm の間隔が必要で、常にこれを守ってください。
5. 回路図に安全記号（注）マークが付いている特殊コンポーネントの交換は、必ず純正部品を使用してください。
6. 事前の同意または通知なしで回路構成を変更することは違法となります。
7. 装置の修理場所で適用される作業安全条例も同様に厳守してください。また、作業場所についての条例も順守してください。
8. MOS 回路の取り扱いに関する指示に従ってください。

注： **安全コンポーネント（交換の際は必ず純正部品を使用してください）**

1. はじめに

1.1 製品の紹介

このたびはエレクトロボイス社 Q シリーズをお買い上げ頂き有難うございます。本書をお読みになり、エレクトロボイス社アンプに組み込まれた機能を理解し、その性能をご活用ください。

1.2 開梱と点検

梱包をていねいに開け、パワーアンプを取り出します。パワーアンプのエンクロージャに輸送中に生じた損傷がないか調べます。当社のアンプは出荷前に入念な検査が行われ、お客様の手元に完璧な状態でお届けしています。パワーアンプに損傷がある場合は、直ちに販売店もしくは当社までお知らせ下さい。また、段ボール箱と梱包材は運送業者の検査用に保管しておいてください。
パワーアンプの外部に損傷がない場合も、段ボール箱と梱包材一式を保管しておくことをお勧めします。

注意
パワーアンプの運搬には、オリジナルの梱包材以外のものを使用しないでください。

パワーアンプを運搬する場合は、必ずオリジナルの段ボール箱と梱包材を使用してください。メーカー出荷時と同様に梱包することで輸送中の損傷から保護できます。

1.3 内容物と保証

- パワーアンプ 1
- 取扱説明書（本書） 1
- 電源コード 1
- フットスタンド 4
- 保証書 1

購入日/納品日が記入された納品書と保証書は安全な場所に保管しておいてください。

1.4 機能と説明

エレクトロボイス社 Q シリーズ・アンプは信頼できる高出力、高効率、有名なプロ用オーディオ性能が 1 つにまとめられています。ZX、TourX、Phoenix スピーカ・ファミリーなどさまざまな移動式、クラブサウンド・システム向けのシステム・ドライブとして最適な選択です。包括的な保護システムとして，過熱、過負荷、短絡、高域発信、DC と、バック EMF、突入電流から保護する回路が組み込まれています。また、スピーカは電源投入時遅延リレーで保護されています。特許をもつ内蔵の LPN（ローパス・ノッチ）フィルタがダイナミック信号（キック・ドラムなど）の過渡ひずみを補正し、より高い音響出力が可能で迫力が増します。

1.5 ユーザの責任

スピーカ･システムの破損
Q パワーアンプは非常に高出力で、人や接続したスピーカ･システムにとり危険です。高出力電圧は接続したスピーカ･システムを破損、場合によっては破壊することがあります。特に Q アンプをブリッジ・モードで動作させるときは注意が必要です。スピーカに接続する前に、必ずスピーカ･システムの仕様を調べ、その連続およびピーク出力処理容量を確認してください。アンプのフロントパネルにある入力レベル・コントロールを下げて増幅を減らしても、かなり高い入力信号をもつフルパワー出力になることがあります。

スピーカ/出力の危険
Q アンプは出力コネクタで危険な高電圧を生成します。感電防止のため、パワーアンプ動作中は未使用のスピーカ・ケーブルに触らないでください。

警告
⚡ マークの付いた端子には危険な電流が流れているので、この端子に接続する外部配線は訓練を受けたスタッフか、出来合いの配線材を使用して接続してください。

HF 干渉（米国 FCC 情報）

1. 重要：本装置を改造しないでください。メーカーが明示的に承認していない変更、改造を行うと、FCC により許諾された装置操作のユーザの権限は無効になります。

2. 注: 本装置は FCC 規則のパート 15、クラス A デジタル装置の制限に適合していることが試験で検証済みです。この制限は、装置を住宅地で設置したときの有害な干渉から適切に保護するためのものです。この装置は無線周波数エネルギーを生成、使用および放射することがあり、説明書の指示に従って設置、使用しなかった場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こします。なお、特定の設置で干渉が起こらないという保証はありません。この装置がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起している場合は（この装置をいったんオフにした後オンにして調べることができます）、次の干渉防止措置を講じてください。

- 受信アンテナの向きまたは位置を変更してください。
- 本装置をラジオ/TV から離してください。
- 装置をラジオ/TV とは別の回路のコンセントに接続してください。
- 販売代理店または熟練したラジオ/TV 技術者に相談してください。

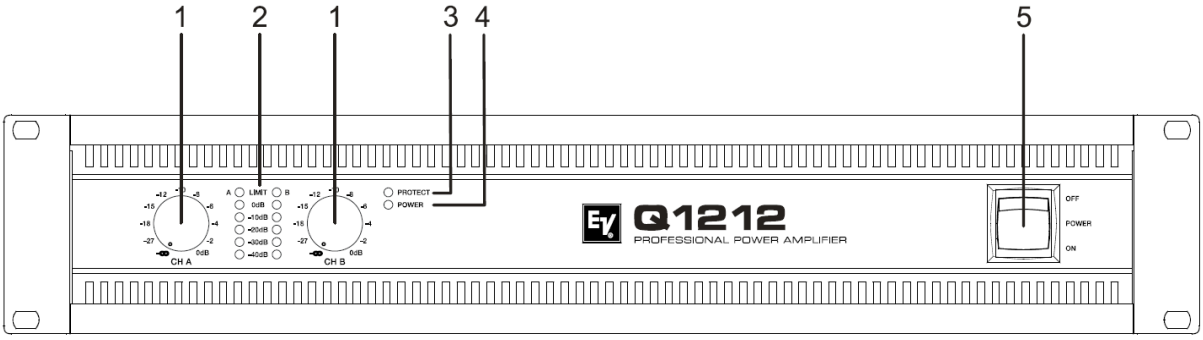
本製品はクラス A 製品です。国内環境では、本製品は電波干渉を引き起こすことがあり、その場合は適切な手段を講じる必要があります。

このクラス A デジタル装置はカナダ規格 ICES-003 に準拠しています。

2. 設置

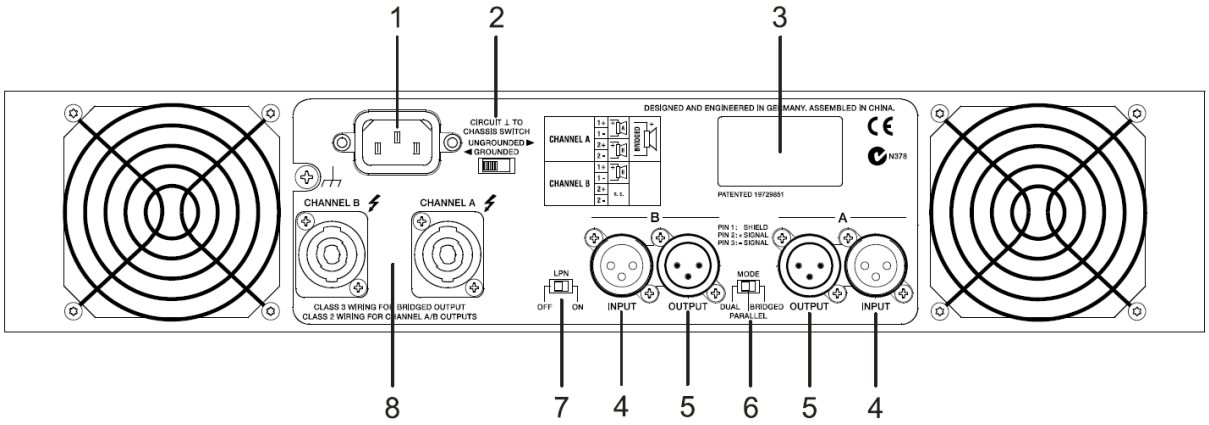
2.1 コントロール、インジケータおよび接続口

正面図



1. チャンネル A と B の入力レベル・コントロール（CH A、CH B）
2. チャンネル A と B のレベル・インジケータ
3. チャンネル A と B の保護インジケータ（PROTECT）
4. 電源オン/オフ・インジケータ（POWER）
5. 電源スイッチ

背面図

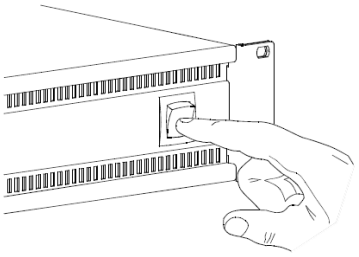


1. 電源差込み口
2. グラウンド・リフト・スイッチ（CIRCUIT ⊥ TO CHASSIS SWITCH）
3. 型板
4. オーディオ入力（INPUT A、INPUT B）
5. オーディオ出力（OUTPUT A、OUTPUT B）
6. パワーアンプ・モード・スイッチ（MODE）
7. LPN フィルタ・スイッチ（LPN）
8. パワーアンプ出力 Speakon™（CHANNEL A、CHANNEL B）

2.2 使用電圧

パワーアンプは電源入力から電力供給を受け取ります。必ず付属の電源コードを使用してください。設置作業中は、パワーアンプのコードをコンセントから抜いてください。また、パワーアンプは必ず型板に明記された定格電圧に対応したコンセントに接続してください。

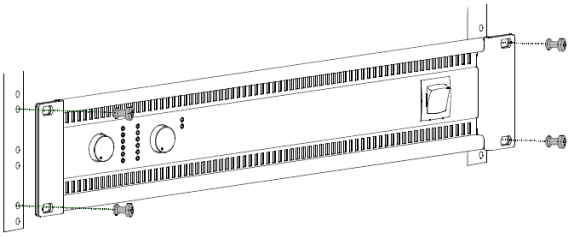
2.3 電源スイッチ

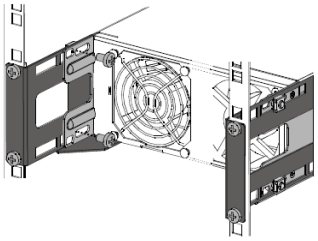


フロントパネルの電源スイッチはパワーアンプと電源を分離します。電源スイッチを押すとパワーアンプの起動が開始します。ソフトスタート回路が電源の突入電流ピークを補整し、パワーアンプのスイッチをオンにしたときに電源の自動カットアウトの作動を防止します。スピーカ･システムは出力リレーを通じて約 2 秒遅れでスイッチがオンになり、電源投入時にスピーカから聴こえるノイズを効果的に抑えます。この遅延中、PROTECT-LED が点灯し、ファンが回ります。この状態で保護機能がすべて適切に動作しています。

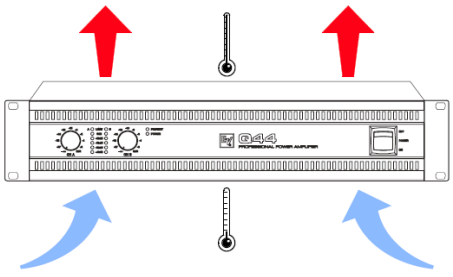
2.4 取り付け

Q アンプは従来型の 19 インチ・ラックケースに設置するように設計されました。次の図に示したように、4 本のネジとワッシャでパワーアンプのフロント・ラックマウント・イヤを固定します。
パワーアンプを設置したラックケースを運搬する場合は、アンプの背面も固定する必要があります。背面を固定しないと、パワーアンプとラックケースが損傷することがあります。図に示したようにパワーアンプを 4 本のケース・ナットとネジでラックに取り付けます。パワーアンプを固定するためのブラケットはオプショナルパーツとして用意されています。**オプショナルパーツ型名 ：RMK-15**





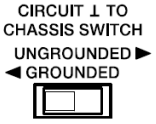
2.5 通気



本アンプは、エレクトロボイス社の他のファン冷却式パワーアンプと同様、前面吸気、背面排気です。これは明らかにラックケースの内側より外側の空気のほうがが冷たいためです。パワーアンプは温度が低く保たれ、排熱をより簡単に特定方向に放散できます。通常、パワーアンプは、新鮮な空気が前面からスムーズに入り、排気が背面から出ていくようにセットアップ、設置する必要があります。パワーアンプをケースまたはラック･システム内に設置する場合は、十分な通気を確保できるように注意してください。パワーアンプのリアパネルとキャビネット/ラックケースの内壁に最低 60 mm × 330 mm の風道を確保してください。また、風道がキャビネットまたはラックケースの一番上の通気ルーバーまで届いていることを確認してください。キャビネット/ラックケースの上は通気のため最低 100 mm は空けてください。パワーアンプ動作中、キャビネット/ラックケース内の温度はすぐに 40℃まで上がるので、同じキャビネット/ラックケースに設置した他のすべての装置の最大許容周囲温度に注意してください。

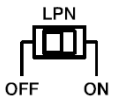
注意
パワーアンプの通気ルーバーをふさいだり閉じたりしないでください。十分な冷却/通気がないと、パワーアンプは自動的に保護モードに入ります。通気ルーバーにほこりがたまらないようにし、空気がスムーズに流れるようにしてください。
ヒーター、送風機、ストーブまたはその他の熱放射装置など熱源の近くで使用しないでください。
故障なく動作させるため、最大許容周囲温度 40℃を超えていないことを確認してください。

2.6 グラウンドリフト



グラウンド・リフト・スイッチにより、ノイズ・ループはなくなります。パワーアンプとラックケース内の他の装置を一緒に動作させる場合は、このスイッチを「GROUNDED」位置に設定することをお勧めします。パワーアンプを異なるグラウンド電位をもつ機器と同時に動作させる場合は、このスイッチを「UNGROUNDED」に設定してください。

2.7 LPN フィルタ

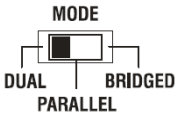


特許をもつ LPN（ローパス・ノッチ）フィルタは接続したスピーカの周波数と位相特性を補正します。この効果はイコライザーや「バスブースター」では出せません。LPN フィルタは主にオーディオ信号の立上り時間を最適化するものだからです。 フィルタの設定を ON、OFF に変え、サウンドに実際にどのような効果があるか調べてください。サウンドは、特にフルレンジ・スピーカやサブウーファーを使ったときにさらにパワフルになります。大型システム（EV 社の DC-One 経由で制御されるもの）では、LPN フィルタの使用はお勧めしません。

2.8 動作モードの選択とオーディオ出力のケーブル配線

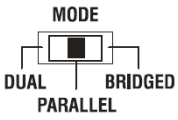
パワーアンプのリアパネルにある MODE スイッチは、オーディオ入力で入力信号がどのように処理されるかを決定します。選択できる設定は DUAL、PARALLEL または BRIDGED です。

DUAL



DUAL モードでは、パワーアンプの 2 つのチャンネルは互いに独立して動作します。この動作モードは、ステレオ動作のような 2 チャンネル・アプリケーションに使用します。フロントパネルにある入力レベル・コントロールを使い、チャンネルの増幅を別々に調整できます。

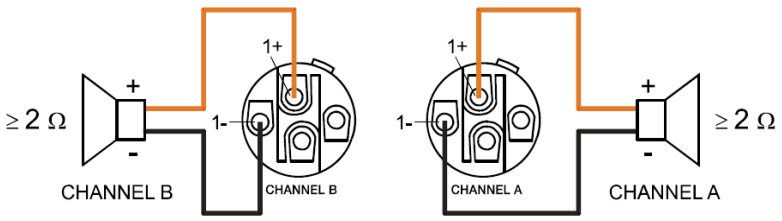
PARALLEL



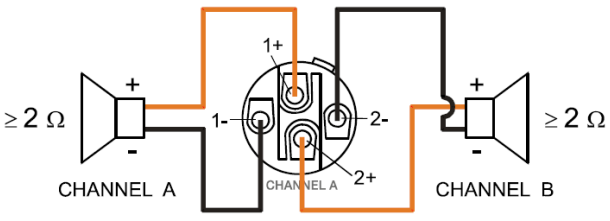
PARALLEL モードでは、チャンネル A と B の入力は直接、電気的に結合されます。オーディオ信号はチャンネル A に入力します。結合されるのはチャンネルの入力のみなので、2 つのチャンネルの増幅は入力レベル・コントロールを利用して別々に調整できます。同じ入力信号が大型システム設備の複数のパワーアンプ・チャンネルを駆動している場合は必ず、PARALLEL 動作モードを選択します。

注意
PARALLEL モードでは、入力信号は入力チャンネル A のみに送ります。

代表的なスピーカ･システムの配線
最初の方法は、2 つの Speakon タイプ・コネクタを使用する方法で、スピーカはソケットのピン 1+と 1-に接続します。正しい接続図はアンプのリアパネルにも示されています。

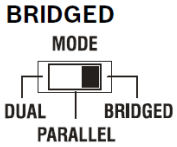


バイアンプ配線
パワーアンプを DUAL または PARALLEL モードで動作させるときのもう 1 つのスピーカの接続方法は、Speakon タイプのコネクタ CHANNEL A を使い、1 つのスピーカ・キャビネットを上記のようにピン 1+と 1-に接続し､もう 1 つのキャビネットを図に示したようにピン 2+ と 2-に接続する方法です｡Speakon CHANNEL A コネクタのピン 2+ と 2-だけが割り当てられます。このように接続すると、アクティブな 2 ウェイ動作（バイアンプ）で使用するスピーカ･システムの配線が容易になります。正しい接続図はアンプのリアパネルにも示されています。



Speakon CHANNEL B			Speakon CHANNEL A			
1+	1-	**コネクタ**	1+	1-	2+	2-
B+	B-	**信号**	A+	A-	B+	B-

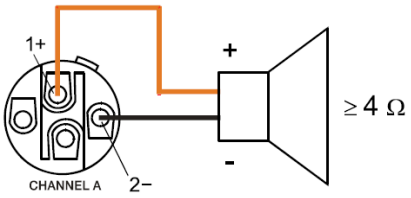
表 2.1：Speakon A と B コネクタを使ったスピーカ接続



BRIDGED モードでは、両方のアンプ・チャンネルはプッシュプル・アンプとして動作し、2 倍の出力電圧を提供します。オーディオ信号はチャンネル A に入力します。増幅はチャンネル A のみのレベル・コントロールで設定します。

注意
BRIDGE モードでは、入力信号は入力チャンネル A のみに送る必要があります。増幅レベルはチャンネル A の入力レベル・コントロールで設定します。

ブリッジ・モード動作では、スピーカ接続は Speakon ソケット CHANNEL A のピン 1+とピン 2-を使用して行います。正しい接続図はアンプのリアパネルにも示されています。



	Speakon CHANNEL A	
接続ピン	1+	2-
チャンネル割り当て	Bridged+	Bridged-

表 2.2：Speakon A を使ったスピーカ接続

注意
BRIDGED モード動作では、結合された負荷が 4Ωより下がってはいけません。出力が非常に高い電圧になるため、接続したスピーカ・システムがそのような電圧に耐えられなければいけません。使用するスピーカ・システムの仕様をよく調べ、パワーアンプの出力容量をチェックしてください。

2.9 オーディオ入力ケーブルの配線

入力 INPUT A と INPUT B は電子バランス型です。XLRF 型コネクタのピン配列は IEC 規格 268 に準拠しています。

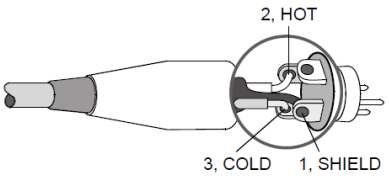


図 2.1：入力のバランス型接続

可能な場合、パワーアンプの入力には常にバランス型オーディオ信号フィードの使用が望ましく、アンバランス型接続は、ケーブルが非常に短くパワーアンプの近くに干渉信号がない場合にのみ使用してください。この場合、スクリーンのブリッジ（シールディング）とコネクタ内で反転入力のピンが必要です。こうしないと、レベルが 6 dB 低下します。図 2.11 も参照してください。ディマー、電源接続、HF 制御ラインなどの外部干渉ソースに対する電磁波耐性のため、できれば常にバランス型配線と接続を使用してください。

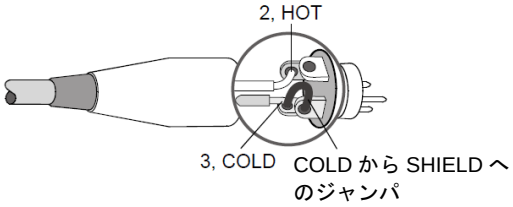


図 2.2：入力のアンバランス型接続

各チャンネルの入力コネクタの横に、XLR 型コネクタ（OUTPUT A または OUTPUT B）があります。これは並列接続してオーディオ信号を楽にディジーチェーン接続可能で、追加のオーディオ装置を接続できます。

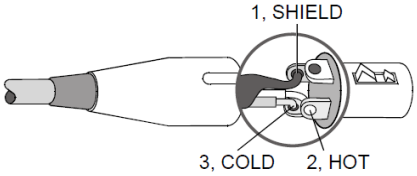
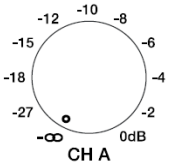


図 2.3：出力のバランス型接続（デイジーチェーン）

3. 操作

3.1 ボリューム・コントロール



DUAL、PARALLEL モードでは、パワーアンプのフロントパネルにある CH A と CH B レベル・コントロールを使用して対応するチャンネルの増幅を調節します。コントロールを右に回すとボリュームが上がり、左に回すと下がります。BRIDGED モード操作では、パワーアンプの出力ボリュームは CH A レベル・コントロールによってのみ制御されます。CH B レベル・コントロールの設定を変更してもボリュームは変わりません。

3.2 表示

PROTECT

PROTECT-LED が点灯している場合、熱的過負荷、短絡、バック EMR、高域発信などに対する内部保護回路の 1 つが作動しています。この場合、出力リレーがパワーアンプを接続した負荷から分離し、接続したスピーカ・システムとパワーアンプも損傷しないように保護します。スピーカ・ケーブルの短絡など故障が起きた場合には、取り外しが必要です。熱的過負荷の場合には、パワーアンプがクールダウンし、自動的に正常動作に復帰するまでしばらくそのままにする必要があります。

-40dB...LIMIT

レベルはパワーアンプのフロントパネルにある縦 2 列の LED から判断でき、それぞれの列の LED が各チャンネルの実際のレベルを示します。最大増幅に達していない時には-40dB、-30dB、-20dB、-10dB、最大増幅に達する直前に 0dB を示します。0 dB は、パワーアンプの入力出力電圧の内部比を比較した結果で、リミッティングが聞き取れるようになる前でも最大増幅の限界に達したことを正確に示します。内蔵のダイナミック・オーディオ・リミッタが作動し、パワーアンプがクリッピング限度または一般的には最大容量で駆動されると同時に、LIMIT LED が点灯します。短時間の点滅は問題ありません。これは内部リミッタが最大 21 dBu の入力レベルを約 1%の THD まで調整します。これに対し、LIMIT LED が点灯している場合は、接続したスピーカ・システムが過負荷で損傷しないようボリュームを下げることをお勧めします。

POWER

POWER-LED はパワーアンプがオンのとき、緑色で点灯します。アンプのスイッチをオンにしても POWER-LED が点灯しない場合は、パワーアンプが電源に接続されていないか、または一次フューズが飛んでいたりします。

3.3 ファン冷却

パワーアンプには 2 台のファンが取り付けられています。ファンは 3 段階の最適性能で切り替えられます。つまりファンは常時作動することはなく、周囲温度に応じて各ファンの回転速度が制御され、アイドル状態中は非常に静かに回転します。パワーアンプのチャンネルの温度が別々に測定・監視されます。

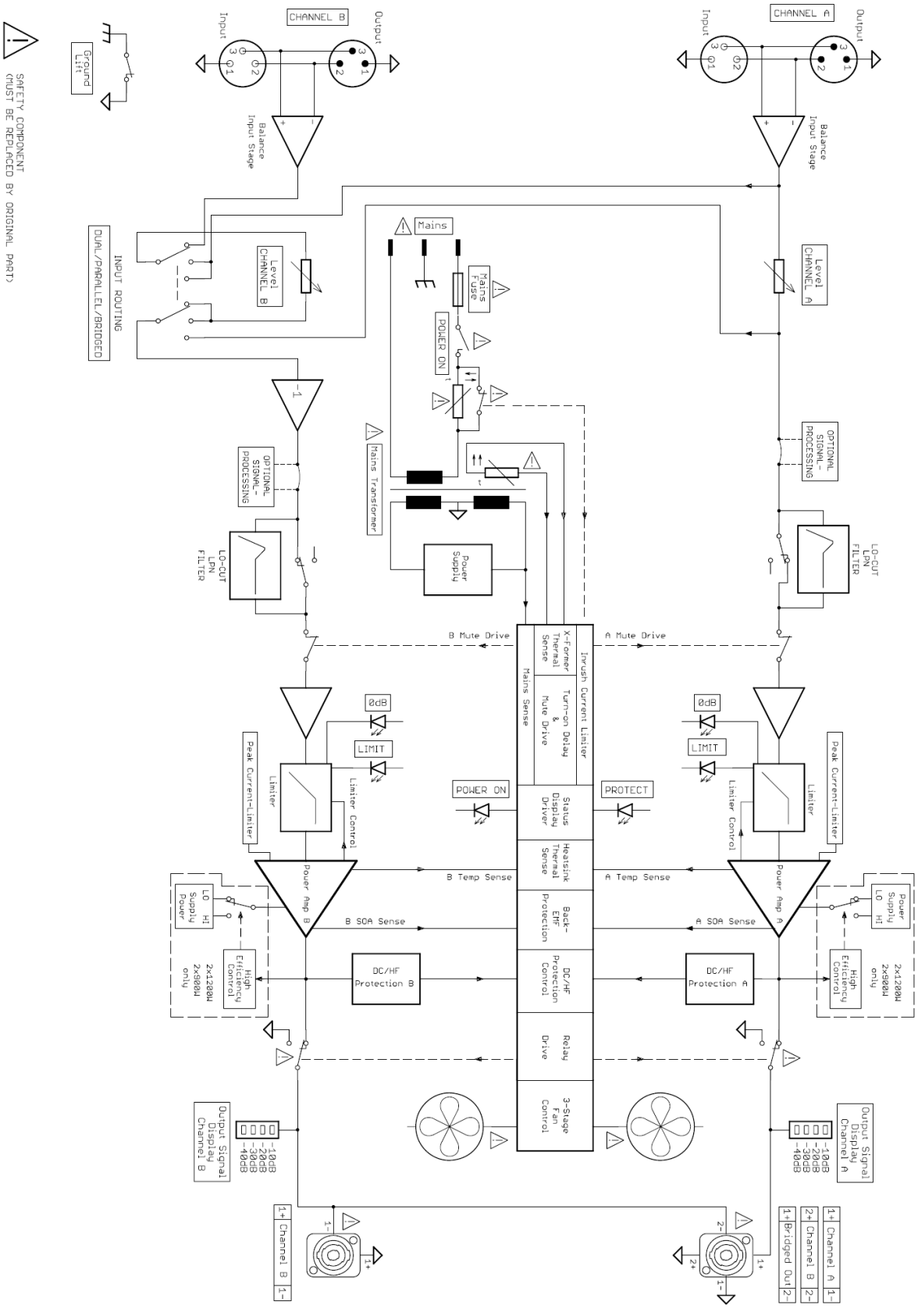
仕様

特に指定のない限りアンプは定格条件、2 チャンネルが駆動、負荷 8 Ω

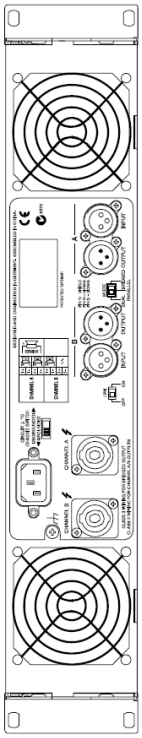
	Q44			Q66			Q99			Q1212		
負荷インピーダンス	2Ω	4Ω	8Ω	2Ω	4Ω	8Ω	2Ω	4Ω	8Ω	2Ω	4Ω	8Ω
最大ミッドバンド出力 THD = 1%、1 kHz、デュアル･チャンネル	650W	450W	270W	900W	600W	380W	1250W	900W	550W	1800W	1200W	750W
定格出力 THD < 0.1%、20 Hz…20 kHz	-	400W	200W	-	500W	250W	-	800W	400W	-	1100W	550W
最大シングル・チャンネル出力 ダイナミックヘッドルーム、IHF-A	1150W	660W	350W	1700W	950W	480W	2450W	1400W	700W	3400W	1800W	950W
最大シングル・チャンネル出力 連続、1 kHz	850W	540W	310W	1200W	750W	420W	1700W	1100W	630W	2400W	1500W	850W
最大ブリッジ出力 THD = 1%、1 kHz	-	1300W	900W	-	1800W	1200W	-	2800W	1800W	-	3600W	2400W
最大 RMS 電圧スイング THD = 1%、1 kHz	55.3 V			65.1 V			78.8 V			90.6 V		
電力帯域幅 THD = 1%（ref. 1 kHz）、half power @ 4 Ω	< 10 Hz…30 kHz											
電圧ゲイン（ref. 1 kHz）	32.0 dB											
入力感度 定格出力@ 8 Ω、1 kHz	+2.2 dBu（1.0 V_{rms}）			+3.1 dBu（1.11 V_{rms}）			+5.1 dBu（1.39 V_{rms}）			+6.6 dBu（1.66 V_{rms}）		
定格出力時の THD MBW = 80 kHz、1 kHz	< 0.03%											
IMD-SMPTE、60 Hz、7 kHz	< 0.1%											
DIM30、3.15 kHz、15 kHz	< 0.05%											
最大入力レベル	+21 dBu（8.69 V_{rms}）											
クロストーク（ref. 1 kHz）、定格出力時	< -80 dB											
周波数特性（ref. 1 kHz）	10 Hz…40 kHz（±1 dB）											
入力インピーダンス、アクティブ・バランス	20 kΩ											
ダンピングファクター、1 kHz	> 300											
スルー・レート	25 V/µs			26 V/µs			27 V/µs			30 V/µs		
S/N 比、A ウェイト	> 106 dB			> 107 dB			> 109 dB			> 110 dB		
出力ノイズ、A ウェイト	< -71 dBu											
出力段トポロジ	クラス AB						クラス H					
電源電圧	100 V；50 Hz…60 Hz（出荷時に構成）											
消費電力 最大出力の 1/8 @ 4 Ω	550W			700W			700W			850W		
メイン・ヒューズ	T20AH			T25AH			T25AH			T30AH		
保護	オーディオ・リミッタ、高温、DC、高周波、短絡、バック EMF、ピーク電流リミッタ、突入電流リミッタ、電源投入時遅延											
冷却	前面吸気、背面排気、3 段階ファン											
周囲温度の範囲	+5 °C…+40 °C（40 °F…105 °F）											
安全クラス	I											
寸法（W × H × D）、mm	483 × 88.1 × 421.5											
重量	12.6 kg			14.8 kg			16.3 kg			17.7 kg		
信号処理	LPN、切り替え可											
オプション	2 ウェイ・クロスオーバー、内蔵フィルタ・カード、24 dB, LR 330 Hz（NRS 90249）、500 Hz（NRS 90250） 800 Hz（NRS 90251）、1200 Hz（NRS 90252）											

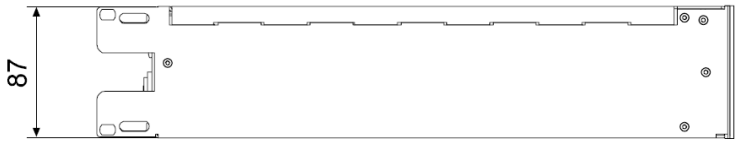
周囲温度によっては、デュアル・モードで 2Ω負荷またはブリッジ・モードで 4Ωでは連続して動作しません。
また、デュアル・モードで 2Ω、ブリッジ・モードでは 4Ωで入力パワーが定格消費電力の 1.1 倍を超えます。

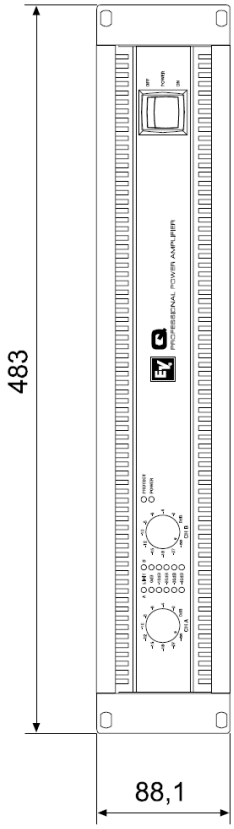
ブロック図

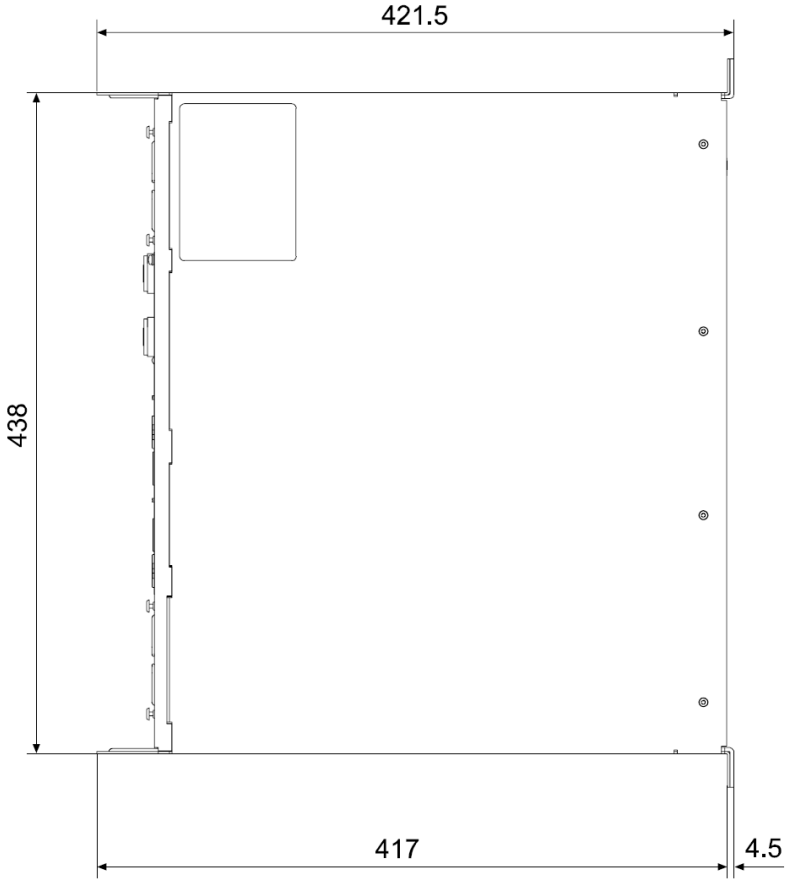

SAFETY COMPONENT
(MUST BE REPLACED BY ORIGINAL PART)
Ground Lift
CHANNEL B
CHANNEL A
Input
Output
Balance Input Stage
INPUT ROUTING
DUAL/PARALLEL/BRIDGED
Level CHANNEL B
Level CHANNEL A
Mains
Mains Fuse
POWER ON
Mains Transformer
Power Supply
OPTIONAL SIGNAL-PROCESSING
LO-CUT LPN FILTER
B Mute Drive
A Mute Drive
X-former Thermal Sense
Inrush Current Limiter
Mains Sense
Turn-on Delay & Mute Drive
0dB
LIMIT
Peak Current-Limiter
Limiter
Limiter Control
POWER ON
PROTECT
Status Display Driver
Heatsink Thermal Sense
B Temp Sense
A Temp Sense
Power Amp B
Power Amp A
Back-EMF Protection
B SOA Sense
A SOA Sense
DC/HF Protection B
DC/HF Protection A
DC/HF Protection Control
Relay Drive
3-Stage Fan Control
LO HI Supply Power
2x1200W 2x900W only
High Efficiency Control
Output Signal Display Channel B
Output Signal Display Channel A
-10dB -20dB -30dB -40dB
1+ Channel B 1-
1+ Channel A 1-
1+ Bridged Out 2-
2+ Channel B 2-

寸法









EVI AUDIO

www.eviaudio.co.jp

株式会社 イー ブイ アイ オーディオ ジャパン

100-0014　東京都千代田区永田町2丁目13-1　Phone：03-5485-4427　Fax：03-3507-4422

品川サービスセンター／140-0002　東京都品川区東品川4丁目13-34 タカセ(株)東京営業所内　Phone：03-5485-4434　Fax：03-3450-9791

名古屋／Phone：052-331-9691　Fax：052-331-9592　　大　阪／Phone：06-6464-3109　Fax：06-6464-3099